



休み時には子どもたちの笑顔と歓声が校庭にあふれています。

※甲府市立山城小学校では「万歩計」を活用し積極的に運動する意識付けを行っています。



- %にする。(D・Eの割合の減少)
- ☆学校で行うチャレンジ運動等の個人目標達成率を○○%以上にする。
- ☆(新体力テストを継続している学校について)今年度の伸び率が昨年度の伸び率を上回る。 など
- (イ)運動・遊び、スポーツ活動に関する目標指標及び数値例
- ☆学校及び放課後の外遊びの頻度週三日以上の児童生徒の割合を○○%以上にする。
- ☆一週間に二日以上スポーツ活動に親しむ児童生徒の割合を○○%以上にする。
- ☆運動嫌いの児童生徒の割合を0%にする。 など
- (ウ)生活習慣等に関する目標指標及び数値例
- ☆朝食摂取率を100%にする。

《実践プログラムの例》

<b>放課後「フィットネスクラブ(総合運動部活動)</b> (小・中・高)	
目標指標・数値	※総合評価D・Eランクの児童生徒、各学年○○%以下とする。
取組内容例	○毎週木曜日放課後30分程度、時期によって実施内容を変えていく。 ・伝承遊び・水泳・かけっこ・ボール遊び・なわとび など
<b>てくてくあるこうウォーキング運動</b> (小・中・高)	
目標指標・数値	※一日平均1万5000歩以上にする。
取組内容例	○定期的に万歩計を全員に装着させ、日常の活動量の把握をすることともに、歩数目標を持たせる。 ○保護者の理解を得、徒歩通学を奨励する。 ○週2回のウォーキングタイムを設定し、ウォーキングコース(校内)を歩く。 ○ウォーキングカードを作成し、各個人(チーム)でも自主的に取り組めるようにする。
<b>元気UPタイム</b> (小)	
目標指標・数値	※学校及び放課後の外遊びの頻度週3日以上児童生徒の割合を80%以上にする。
具体的な取組内容例	○実際に「元気UPタイム」(外遊びの時間)を設定し、異年齢集団でのスポーツ活動を行う。 ○この異年齢集団は運動会や体育集会等にも活用し、日常的に関係が持てるようにする。
<b>部活前・帰宅前 体力向上タイム</b> (中・高)	
目標指標・数値	※総合判定B以下のすべての児童生徒をワンランクアップさせる。
取組内容例	○年度始めに、サーキットなど運動プログラム内容を決定する。 ○毎週3回程度、部活前または帰宅前に「体力向上タイム」として、運動に取り組ませる。
<b>みんなでスポーツランキング</b> (小・中・高)	
目標指標・数値	※各種目のランキング記録20%アップ
取組内容例	○なわとびなど10のランキング種目を用意し、休み時間や放課後等自主的に取り組ませる。 ○児童生徒体育委員会を活用し随時、記録の申告をさせ掲示物や放送等で報告する。 ○チャレンジ大会を開催し、ランキング種目の大会を行う。
<b>「みんなでジャンプ」なわとび大作戦</b> (小・中・高)	
目標指標・数値	※なわとび規定種目の目標達成率90%以上にする。
取組内容例	○始業前、休み時間、放課後等、教育活動として定期的に位置づけ、個人・チームでの取組を行う。 ○体育集会等の行事を活用し、ミニ発表会(検定会)をする。 ○なわとび進級カードを作成し、各個人(チーム)でも自主的に取り組めるようにする。
<b>生活習慣・健康チェック</b> (小・中・高)	
目標指標・数値	※朝食摂取率を100%、メディア接触時間2時間以上の児童生徒の割合を半減させる。
取組内容例	○年度始めに自分の生活目標を設定し、年2回(9月・2月)評価し見直しを行う。 ○家庭の協力を仰ぐ重点週間を設け家族で取り組む。協力を得るための通信を各家庭に配布。

これらは、あくまでも一例です。各学校のアイデアを生かした実践を…。

さらに、単一のプログラムだけでなく、

- 【step1】定期的・継続的な実践
  - 【step2】実践の評価
  - 【step3】実践プログラムの計画・企画(継続的で実践可能なプログラム)(プログラム例参照)
  - 【step4】実践プログラムの計画・企画(継続的で実践可能なプログラム)(プログラム例参照)
  - 【step5】定期的・継続的な実践
  - 【step6】実践の評価
  - 【step7】実践プログラムの計画・企画(継続的で実践可能なプログラム)(プログラム例参照)
- 。新体力テスト等の再実施
- 。各学校独自のアンケートや観察などの調査等による評価
- 。各学級独自のプログラム等を見直し・改善
- 。次にような取組をあわせることで、地域や家庭との連携が深まり、一層効果的な実践運動が展開されることを期待しています。
- 講演会・親子活動等の開催
  - 運動や食事などの生活習慣等に関する講演会や親子ふれあい活動等の実施
  - 地域との連携
  - 総合型スポーツクラブなど地域のクラブ等との連携
  - 地域の高齢者との交流
  - 長期休業中の講座や土曜日の出前講座等の開催
  - 情報の提供・啓発
  - 学校だより、ニュースレター等の活用(地域にも回覧)
  - マスコミ等への情報提供
  - 地域の公民館や役場への実践公開や広報への掲載
  - その他
  - 体育・保健等の授業参観、その後の

おわりに

ここで忘れてはいけないことは、本実践運動は記録の向上のみが目的ではありません。児童・生徒が運動の楽しさを味わい、健康の大切さを理解し、自ら進んで運動に親しむ態度がはぐくまれたり、健康的な生活習慣を営む態度が養われたりすることで、その結果として目標数値が達成できるということが大きなねらいです。各学校では、その趣旨を理解し、地域や家庭に啓発を図りながら、生き生きとした活気ある学校づくり、地域ぐるみの健康・体力づくりへの架け橋として、この一校一実践運動を活用し、息の長い実践として充実させていってほしいと思います。

次回は、集計結果に基づく本県の体力の実態や、今後の課題についてお知らせする予定です。



※大月市立強瀬小学校では外部の指導者を活用し「親子ふれあい活動」を開催。親子活動を通して保護者へ運動の大切さを伝えました。

懇談会などの開催

。元氣アップハンドブック(文部科学省作成)の活用など

※新体力テスト・健康実態調査の結果及び一校一実践運動の実施要項は、総合教育センター「体育・健康教育のページ」にて掲載いたします。

HP アドレス  
http://www.kai.ed.jp/tairyoku/  
※スポーツ健康課「学校体育担当のページ」からもアクセスできます。

HP アドレス  
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sports/184.011.html

特集 3

# 心豊かで確かな学力と伝え合う力を持つ児童の育成

## 一人ひとりを生かしたコミュニケーション活動を通して

甲州市立塩山北小学校

### ◇はじめに

本校は、平成十六年度から山梨県教育委員会より「心をたがやす国語力向上推進事業」の拠点校としての指定を受け研究と実践を進めてきました。

児童数二百三十一人、職員数十八人の今年度創立五十周年を迎えた学校です。

### ◇今なぜ国語力か

平成十六年二月に文化審議会より「これからの時代に求められる国語力」が答申されました。

山梨県教育委員会では「やまなしの教育基本計画」の重点施策の一つに「確かな学力と伝え合う力を育てる国語力向上」を掲げました。

では、今なぜ国語力の向上が大切なのでしょう。

それは、国語力が確かな学力の基盤であるからです。国語は知的活動の基盤としてあらゆる「知識の獲得」と「能力の形成」に関わるものだからです。

また、国語力は「伝え合う力の基盤」であるからです。人と人とのコミュニケーションを成り立たせている「聞く・話す・読む・書く」のすべてが国語を通して行われ、これらの活動を通して社会生活が成立しているのです。

このような意味から、本校では国語力を確かな学力と伝え合う力の基盤となる大変重要なものであると共通理解し研究と実践を進めてきました。

### ◇研究の構想

国語力のもとになる「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」は、具体的には「聞く・話す・読む・書く」という言語活動になります。

従ってこれらの言語活動を豊かにして、それぞれの力を育成することが国語力を向上させることとなります。学校教育全体を通して、4つの言語活動を豊かにするために下記のような研究の構想をもって実践を進めて来しました。

校内研究全体構想図



国語力を育む基本は国語科の授業です。指導時間が少なくなっている現在、国語科の授業の指導の工夫は欠かせないものです。さらに、本校では、国語力を支える取り組みを工夫してきました。一つ目は「ことばの時間」です。二つ目は「言語環境づくり」です。

三つ目は「読書活動」です。四つ目は「家庭地域との連携」です。国語科と四つの国語力を支える活動で国語力を向上させようという研究の構想をもって取り組んで来ました。

◇研究の内容

①国語科の授業の改善と工夫

今年度は、学習指導要領で示す内容のA領域「話すこと聞くこと」に絞って研究と実践を進めてきました。特に聞き手を育てることに視点を当てました。

では、どのような聞き手を育成するかですが、まず、しっかり聞き取ることが出来る聞き手です。聞くということは、相手を受け入れ、自分の見方や考え方を広げることになるからです。

さらに、話し手の言葉を聞いて、受けて返す返し方を身に付けた聞き手です。つまり、話し手の話に対して、自分の感想や意見を言葉で伝え、対話することができるといふことです。

本校では、このような聞き手を育てたいと考え実践してきました。

②ことばの時間の取組

毎週水曜日の業前時間を十分間とり、授業ではなかなか時間がとれない言葉に関する学習に継続的に取り組む、国語力を側面から支えています。

取り組んだ群読は、全校で聞く発表会を行っています。



群読「きりなしうた」

③言語環境づくりの取組

子どもたちが生活している教室や校舎の掲示物、子どもたちの言語に對する関心を高めるため、詩を掲示してその詩に対して子どもたちの心の動きを言葉にし、掲示物の中に残す取り組みをしたりしています。



廊下掲示「詩のまど」

④読書活動の取組

全校朝読書・教師の読み聞かせ・親子読書・教師のお薦めの本の紹介・なかよし読書など、子どもたちの読書意欲を喚起するさまざまな取り組みをしてきました。司書による統計も細かになされ、子どもたちは、図書室へ足を運ぶ回数が増え、貸し出し冊数はどの子も増加してきました。



「仲よし読書」

⑤家庭地域との連携の取組

保護者の皆様の力強い協力のもと、親子で参加する「日曜参観」「運動会」などをテーマに親子川柳づくりに取り組んだり、親子リレー読書に取り組んだりしてきました。

「子どもの言語力の源は、家庭における対話や読書の質と量である」と

考えると、学校は家庭での「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を高める取り組みを保護者とともに進めていくことは大変重要なことだと考えます。



「親子川柳」

◇おわりに

以上のような取組を通していくつか成果が見えてきました。特に、子どもたちの聞く力や読書意欲が向上してきました。また家庭との連携の道筋が見えてきました。

さらに、研究と実践を進めて確かな手応えをつかんでいきたいと考えています。



# 博学連携 ～博物館を“第2の教室”に、“第2の資料室”に！～

“かいじあむ” 山梨県立博物館が開館しました

― 学術文化財課 ―

十月十五日、県立博物館が開館し

ました。約六五、〇〇〇㎡の敷地内には四万本以上の在来植物が植えられております。建物の面積は約一〇、〇〇〇㎡。ほぼ一〇〇m四方の建物です。

平屋で、しかも段差がなく、すべての人にやさしいバリアフリーの施設です。

また、山梨県民の貴重な財産である十九万点以上の資料を守るために、展示室や収蔵庫の屋根を二重にしたり、最新の設備を導入したりしています。

基本テーマは「山梨の自然と人」です。

豊かで多様な自然に育まれた山梨の風土と歴史を調査研究、展示していきます。

また、県立博物館は

- ① 歴史に重点を置いた博物館
- ② 参加体験・交流型博物館
- ③ ハブ博物館

④ 成長する博物館

という四つの性格を持っています。

次に、県立博物館のめざす大きなテーマの一つが「博学連携」です。郷土についての生きた教育の場とも言える博物館と学校教育との連携です。

子どもたちが郷土の歴史に興味を持ち、郷土への愛着を抱くことをめざして、学校と博物館とが協力して、博物館の「もの」や「ひと」や「情報」を積極的に活用していきましょう。

県立博物館では、平成十四年度に「博物館活用研究会」を立ち上げ（高等学校部会は十五年度から）、現場の先生方、指導主事の先生方、山梨県総合教育センターの研修主事の先生方の参加をいただいて、博物館の効果的な活用について学習プログラム等の検討等研究を積み重ねてまいりました。

その成果の一つとして「博物館活

用事例集」を小中学校編と高等学校編としてまとめました。これらを県内の小・中・高等学校に配布しております。

また、次のとおり子ども向けのさまざまな事業を展開しております。

- ・ 体験型展示、体験学習室を使った事業
- ・ 夏休み自由研究プロジェクト
- ・ ワークシートを活用した館内ツアー
- ・ 出前授業の実施
- ・ 常設展パンフレットや図録、施設のガイドブックは、子どもにもわかる内容で編集

さらに、博物館を学校に活用してもらうための県教育委員会としての取り組みとしましては、

- ・ 義務教育課及び高校教育課主催の校長研修会、教頭研修会、教育課程研究協議会等の研修会において、博物館の説明を行い、併せて博物館活動を働きかけて

おります。

指導主事の学校訪問・教科訪問等で博物館を利用しての学習活動や博物館の学芸員等の人材活用することの教育効果を紹介しております。

教育委員会や学校等が主催する外部団体との会合や行事等、また保護者や地域の指導者に対しても働きかけを行っております。

- ・ 出前授業、教育イントラネットのテレビ会議システムによる授業などを紹介すること等を考えております。

多くの先生方に県立博物館を活用していただき、たくさん子どもたちに博物館に来てもらいたいと思います。

県立博物館は子どもたちにとって「第2の教室」です。大いにご活用いただくようお願いいたします。